令和 6 年度　佐久島におけるグリーンスローモビリティの活用に向けた
試走・実証調査事業　実績報告書

1.　地域課題

佐久島の人口は、令和2年10月1日現在196人で、高齢化率は 55.4%である。島内に住む住民は、軽自動車、原動機付自転車、自転車が主な交通手段となっており、島を訪れる観光客は、車で島を訪れることができないため、徒歩または自身の持ち込んだ自転車、民間のレンタサイクルが移動手段となっている。

島内には公共交通機関が存在しないため、自動車や自転車に乗れない島内に住む高齢者は、徒歩または知り合いを頼って島内を移動せざるを得ない状況となっており、あわせて、荷物配送業者もいないため、港に届いた荷物は自分で取りに行く必要がある。

また、島を訪れる観光客のうち、自転車に乗ることができない人や小さな子どもがいる親子などは徒歩での移動となり、観光を充分に楽しめることができていない状況となっている。

※令和 5 年度にも実証調査実施済み

2.　地域課題の解決に資するグリスロの活用イメージ

・診療所、農協や郵便局、渡船場など島民が普段から利用している主要な施設への移動手段
・島外から渡船場に届いた荷物の自宅までの配送
・観光客（高齢者や小さな子ども、家族など）の利用

3.　実証結果概要

・実証期間：令和6年9月9日～10月18日
・事業主体：愛知県西尾市
・運行主体：西尾市佐久島振興課職員・地域おこし協力隊

【実証①：定時定路型】

実証内容	走行ルートを1日3回（1回の走行時間30分）走行。 停留所の他、ルート上で手を上げてもらえば乗車でき、停留所以外で降車することも可能
期間	9月9日～10月18日（土日祝日運休）
乗車人数	延べ43名（島民25名、島民外18名）

【実証②：予約型】

実証内容	実証①の定時定路線走行の間の時間を利用して走行。人や渡船場に届いた荷物などを搬送。予約は専用電話にて受付。

期間	9月9日～10月18日（土日祝日運休）
乗車人数	延べ44名（島民36名、島民外8名）

【実証③：観光客向け走行】

実証内容	フリー走行及び港で待機して、観光客に声をかけて乗車
実施日	9月21日、9月29日、10月12日(10:00～14：00)の3日間
乗車人数	観光客27名

【実証④：グリスロ試乗会、意見交換会】

実証内容	民間業者とグリスロの将来性について意見交換を実施
実施日	10月15日

【実証⑤：愛知県の本土離島間におけるドローン配送検証計画への参加】

実証内容	本土側からドローンにより運ばれてくる荷物を受け取りグリスロで配送
実施日	10月17日

4．利用者からの意見

【実証①：定時定路型、実証②：予約型】 ※島民利用者からの聞き取り
・暑かったので歩くのが大変だったからとても助かる（80 代男性）
・いつも知り合いに頼んで車で送ってもらうけど、これなら気を使わないからいい（80代女性）
・送ってもらうのは風が気持ちいいし楽だけど、電話するのが面倒（80代女性）
・予約するのが面倒でバス停で待ったけどもうちょっと早く来てほしい（80代女性）

【実証③：観光客向け走行】 ※観光客アンケート結果より
・西と東の移動が便利（20代女性）
・景色がきれい（10代女性）
・子どもが小さく自転車に乗れないので助かった（30代女性）
・いろいろ島のことを教えてもらえて楽しかった（30代男性）

5．グリスロ導入による効果と今後の課題

【実証①：定時定路型】
時刻表による走行時間、地図に走行ルートを示した資料を配布し、島民にとって利用しやすいと想定していたが、島民からは時間がわかっていて乗りやすいという意見がある反面、決まった時間まで待てない、歩いて行った方が早い、停留所まで遠いという意見もあり、利用者数は伸び悩んだ。島民以外の利用者においては、船から降りた後乗車する人が多かった。

【実証②：予約型】
幅広い世代の利用を想定していたが、ほとんどが80代以上だった。利用者からの意見として、重い荷物を持ちながら自宅近くまで載せてもらえるので便利だという意見もあったが、70代以下の島民や、荷物を運ぶ必要のある島民は、車やバイクなどの移動手段を持っている人が大半であり、グリスロが走行していることを知っていても乗車する必要がないと考えている人が多い。

【実証③：観光客向け走行】
東西の港を結ぶルート上での乗車が多く、利用者から非常に助かったという意見があった。

また、観光客ということで、小さな子ども連れ親子、年配の方にも乗車してもらえることに加え、走行中も運転手とのコミュニケーションにより島の普段の生活や様子を知ってもらえる機会となり、好評であった。一方で、観光客を乗せて狭い路地を走行することはやめてほしいという島民からの意見もあった。

＜試走・実証調査の様子＞

島民説明会